

成果指標				
成果指標	相談件数			
指標設定の考え方	高齢者への事業内容等の周知を図ることにより、積極的な事業活用を図る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	100件	100件	100件	0
実績	77件	103件	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	日常生活における様々な悩み事に、専門的見地からアドバイスを行い、高齢者が抱える不安や疑問を解消し、安心した生活を送るために役立っている。今後も広報等により周知していきたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	高齢者が地域で安心して生活を継続するために必要な相談事業である。高齢者が気軽に相談できるような態勢を整え、事業を継続する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題